

## 花巻市石鳥谷地域協議会 平成 22 年度第 3 回会議 会議録

### 【日 時】

平成 22 年 8 月 19 日（木）午後 3 時～午後 4 時 25 分

### 【場 所】

石鳥谷総合支所 1 階 委員会室

### 【出席者】

地域協議会委員 10 名（欠席委員：田中委員、鈴木委員、板垣委員）

当局：（支所）菊池総合支所長、高橋地域振興課長、照井市民サービス課長、  
各振興センター局長・局長代理 5 名（欠席：関局長）、各課長補佐 3 名、  
小田島係長、熊谷主査

### 【協 議】

○石鳥谷地域の地域課題について

- ・事前に各委員から提案のあった課題 2 件について、それぞれ委員から説明を行い、次回会議以降で内容を検討していくこととした。

### 【その他】

- ・会議を傍聴した者なし。

※ 会議での発言等は別紙顛末のとおり

※ 会議における資料として、以下を配布した。

「石鳥谷地域における地域課題について」

「国際姉妹都市、国際・国内友好都市の状況」

## ※ 顛末

○ 進行 / 高橋地域振興課長

1. 開 会 菅原久男副会長が開会を宣した。15 : 00

### 2. 会長挨拶

暑いところご参会をいただきましてありがとうございます。第3回目ということでございまして、内容のことは然ることながら、回数としては、石鳥谷地域の協議会は順調にお集まりいただいているものというふうに認識しております。数よりも質というお話もありますけれども、回数を重ねることによって少しずつ具体的な内容の吟味ができるのかなあという、私は気持ちであります。

先般、お話がありましたように、板垣武美委員が公募委員でありますので、自分の判断で言うなれば辞表を出されたというふうに考えておりますし、考えてみますと、もっと大きな立場で市議会議員として活躍する場が確保されたということで、これはこれとして好ましいことだと思っております。

板垣武美委員は、大変、目出度い結果での辞表ということですので、互いに同僚委員として祝福してあげたいというふうに思っております。今お話がありました委員の補充につきましては、公募の立場でありますので、どうするかにつきましては今後の課題というふうにさせていただきたいと思えます。

今日の協議会は、あまりたくさんのお話はありませぬけれども、せっかくの機会でありますので、ご協議いただきたいと思えます。お集まりいただきましてありがとうございます。

### 3. 協 議

#### 菅原昭造会長

それでは協議に入らせていただきますが、2つの提案が、川村茂委員さんと渇澤節子委員さんから提案されておりますが、この事柄を、まずもってご協議いただきましょうか。お話を伺いをいただきたいと思えます。

(1) のところで、提案された方々からお話いただいているいいですね。それではですね、まったく仲間でありますので、川村茂委員さんの方から、提案された内容についてのお考えなり考え方を、座ったままでお願いします。

#### 川村茂委員

在京町人会の関係についての質問を提案したわけですが、このことにつきましては、前回の会議の中でもお話がありました。今までの在京町人会の総会に際しましては、石鳥谷町から郷土芸能等を提供してきた経緯があるということで、昨年は、新堀さんの方からコミュニティが中心となって進められたと聞いております。更には、各町内地域のコミュニティ会議の会長さんの会議の協議の中でもまとまらなかったと聞いております。整理がつかなかったとも聞いて

ております。そこで、私が提案していることは、町人会そのものについての認識が薄いということであったので、その内容について知りたい。それから、合併してから、町人会への郷土芸能等の提供がなかったということのお話の始まりでありまして、東和、大迫、あるいは花巻の在京町人会という組織があるのかないのか。そして、その構成の内容なり、分かる範囲で知りたいということで、ここで提案しております。それからもう一つは、このような、課題、提供がなされている中で、新花巻市の中では、この在京町人会に対する認識なり、あるいは、対応はどう考えているのかと、そのことについての質問です。

### 菅原昭造会長

はい、今、在京町人会に関わる2つの件があったわけですが、質問、提案という内容になっておりますが、まず、現況について、知っている方から説明してください。

### 高橋地域振興課長

都市交流活動のことも記載になっておったので、そちらも含めてお話してよろしいでしょうか。

### 川村茂委員

はい。

### 高橋地域振興課長

在京町人会の活動状況と各都市交流事業についてお尋ねでございますけれども、在京人会はご案内のとおり、花巻市を出身し、東京都及びその近県に在住する皆さんで、合併前の1市3町単位でそれぞれ在京人会を組織しております。旧花巻が、在京花巻人会、旧大迫が、在京大迫人会、旧東和が、在京東和町友会、それから石鳥谷が、在京石鳥谷町人会、と、この4つの組織となっております。これら、在京人会を組織いたしまして、郷土を離れて生活している会員間の親睦と融和を図り、郷土との交流を深めるため活動を行っております。具体的な活動としては、「町会会のつどい」の開催、ふるさと体験ツアー、ふるさと物産店への協力、郷土団体全国大会への出場支援、機関紙の発行、他の在京人会との交流となっております。

次に、都市交流事業についてですが、配付した資料の「国際姉妹都市、国際・国内友好都市の状況」につきましても、このあと、小田島係長の方からご説明いたしたいと思いますが、私の方からは、姉妹都市の要件等について少しお話しさせていただきたいと思っております。

姉妹都市、友好都市ということで言葉が異なっているわけですが、これを規定する国内法や国際的な統一基準はないようでありまして、日本では、姉妹都市の要件として、3要件が掲げられております。一つ目は、両首長による提携

書があること。二つ目は、交流分野が特定のものに限られないこと。三つ目は、交流するにあたって、なんらかの予算措置が必要になることから、議会の承認を得ていること。これら、三要件をすべて満たすものを姉妹、あるいは友好自治体と扱っているようであります。姉妹都市の提携をしている都市同士は、自然環境が類似している、因みに、石鳥谷ですと、ラットランドということで、人口規模や地形が似ていることからということが資料の方に記載になっておりますけれども、それから、市民レベルの交流しているなど、提携のきっかけとして、中学生や高校生の相互派遣交流など活発な交流が行われている状況であります。

次に、在京町人会の関係を少しお話をさせていただきます。まず、あの、合併を境に変わっておりますことは、合併前は、事務局を商工観光課の職員が担当しておりました。合併後は、在京町人会の方をお願いしております。これは、在京人会のみならず、石鳥谷町議員OB会、石鳥谷町自衛隊協力会、消防の分団長以上で組織する石鳥谷町消友会なども、同様に職員が事務局をしておりましたけれども、直接的に市が業務に関わらない団体につきましては、それぞれの団体の方に事務局をお願いいたしたところであります。それから、先ほど川村さんの方から出ました郷土芸能の関係であります。石鳥谷町時代は、各地区の鹿踊りや神楽など、郷土芸能団体を石鳥谷町の方から派遣いたしておりました。ただ、平成18年の合併の2年ほど前、16年、17年なんですが、財政的なことがあって派遣できなかつたようでございます。合併後も、それが継続しているという状況でありました。昨年は、新堀コミュニティー会議のご理解をいただきまして、新堀小学校、特設神楽クラブによる「膳舞」と、千刈田神楽保存会による舞が披露されまして、特にも子供達の舞はアンコールの声がございます。着替えが終わったところを再度着飾って踊っていただきまして、出席者の中には涙を流しながら見ている方もおり、大変喜んで頂いたところがございます。それ以外の行政の対応なんですが、合併後の平成19年までは、商工会から1名の職員、りんどう亭から2名の職員を派遣しておりまして、物産販売や餅つき大会など、対応しておりましたけれども、20年からは経費的な面もありまして、対応していない状況であります。在京石鳥谷町人会に対する花巻市からの運営補助は、25万円となっております。ほかの事例は、花巻が30万円、大迫が10万円、東和10万円となっております。それから、4つの在京人会に対する財政、お金以外の支援状況を比べてみますと、石鳥谷が一番手厚く対応している、そういう状況になってございます。国内外の都市交流活動、そして在京人会も、“交流”がキーワードとなっているわけですが、都市交流は都市同士の交流、在京人会は、花巻市出身者による会と、少し状況が異なっているところではありますが、それぞれに生き立ちを尊重しながら、今後継続して対応してかなければならないものと考えております。

次に配付してあります、国際姉妹都市、国内友好都市の状況につきまして、地域づくり係長からご説明申し上げます。

小田島地域づくり係長 資料により説明。

### 高橋地域振興課長

説明が不足している分があるかと思しますので、あと質問に応える形で説明したいと思しますので、よろしく願いいたします。

### 菅原昭造会長

川村委員さんからの問題提起に対して、現況ということでそれぞれお話がありました。この問題については、何というんですか、「ばあっとやりたい」という提案だと思うんですが、どうしたらいいんですか、お互いにこの知恵をこれから出していただきたいと思います。

ご発言を。フリーで行きます。別に質問じゃなくて結構です。ご発言をお願いいたします。どうぞ。

### 川村茂委員

説明をお願いしますが、先程の説明の中で、現在の花巻市では、それぞれの在京町人会に助成金をそれぞれ交付しているということなようですが、その内訳なり配分の理由について知りたいです。

### 菅原昭造会長

あるいは、使い道についてお願いします。

### 高橋地域振興課長

使い道につきましては、そこまでは把握しておりませんが、結局合併前からの金額がそのまま継続しているという形になっております。

6月に、実態はどうなっているかということで会議はございました。その中でそれぞれ4つの在京人会がどうなっているかということを確認し合っていますが、金額は、合併前の金額がそのまま来ているということで、いつかは統一も必要なのかなという話は出ましたが、具体的な話には至っておりません。

### 川村茂委員

加えて質問します。あの、私ばかり質問するようで申し訳ないんですが、あの実態として石鳥谷町人会の会員というのは何人で構成されているのですか。

### 高橋地域振興課長

名簿上は800人位いるようなんですが、実際、会費を納入している方は150人なそうです。去年の総会に行ったときは100人切っていた、総会参加者が、年々参加者が減っているというようなご発言がありました。在京町人会として

は、11月に行う総会・集いが一番大きな事業かと思えますけれども、いわゆる来賓等まで入れて、120人位の席だったかと記憶しておりましたけれども、数字はちょっと正確ではないんですが、最初の方の会員数の概数と会費納入者数については、総会資料から抜き出し出したものであります。

### 川村茂委員

ほかの町人会の会員等は、分かりますか。

### 高橋地域振興課長

花巻は名簿上は3,000人。会費を納めている方が、一番新しいので305人。それから、大迫は名簿上400人。会費を納めている方が124人。東和は名簿上800人。会費納入者が90人。

### 菅原昭造会長

いずれ、こういうことでしょうか。いわゆる在京町人会という組織に対する補助金は合併前と予算規模、大体同じようなレベルでいっているというようなこと。ただ、そのほかに石鳥谷町では、何百万と使ってきたということですね。町の発展のために。

### 高橋地域振興課長

合併の時まで継続していれば、多分そのまま継続したかと思うんですが、ご案内のとおり財政が非常に厳しくなったんで、その辺が移行しなかったんですが。私も、何回か町人会総会に参加してるんですが、その際に、前は石鳥谷の方から郷土芸能等に来ていただいて盛り上げていただいていたけれども、来なくなったらやっぱり寂しいとか、加えて、りんどう亭さんとかですね、そういったところも来なくなったので、すごく寂しくなったという言葉いただきましたが、去年は幸い、新堀コミュニティさんのご理解をいただいて、町人会の皆さんに喜んでいただいた、という状況になっております。

### 菅原昭造会長

いずれにしても、日本全体がこういう不景気のせいもあるんでしょうが、財政的にある程度恵まれた時期は、とにかく郷土芸能団体を含めて大勢の人達が、行けるように町自体がバックアップしたんですね。これが今までですね。残念ですが、これは川村さんの方も書いてますが、市の財政的なことを感じながら、お金の問題は我々のところでは入り込めないことです。これに代わるべき何か知恵を出そうと理解しています。

### 川村茂委員

色々今説明していただきましたが、私は、基本的には、在京町人会という

方々に対してのふるさとの支援活動、あるいは交流活動というのは大事な部分だと思います。先程、国際交流や国内交流の話も説明していただきましたが、私の感覚の中では、他の地区の交流以前の問題でもっと基本的な部分だと。更には、会員になっている方々は、戦中戦後の方が中心になっていると思われるので、その必要性は大きいと思っております。したがって、前にコミュニティ協議会の会長さん達が協議して、色々、という話を聞いておりますが、郷土芸能を中心とした考え方であるからまとまらない話であって、そのやり方如何によつては、必ずしも10万、あるいは20万というふうに固定したものさしではなく、自主経費参加を募り、更には、それぞれの地域の協力をいただいて対応するならば、これは継続できる部分ではないかというふうにも考えるわけでありまして、その辺のところ共通の、考え方、共通認識をここで出していただければ、今後の提案に対しても、地元、地域に対しても力強くお話できるものと考えますので、その辺の議論をお願いいたします。

#### 菅原昭造会長

という提案であります。どうぞ、皆さんの方からご意見を願います。

私も、8回、9回行っていきますけれども、向こうにいる人達はものすごく期待しているということは、正に、そのとおりでありますけれども、こっちの方は、今まであまりにも行政が手厚く支援していたものでありますから、変なお話ですが、お金がなくなった途端に、こう、尻すぼみになってしまった。やっぱり、みんなの意識が、平等にあっちの方に行ってる人と色々な面で情報交流しようという機運になれば、言うなれば、行政のお金でなくても、出し合ってもそういう雰囲気生まれてくるのかなと感じるところです。私も、川村委員さんの今の考え方については、共感の気持ちがあります。

皆様から、どうぞ。

#### 伊藤賢治委員

私も、あのちょっと広報とかで拝見したことがあるんですけども、今までの、総会の時にこっちから行く、昨年度新堀の方々が行ったと、そういう出している旅費はどうなっているんですか。

#### 高橋地域振興課長

コミュニティ会議さんの方で出していただいております。

具体的な数字はお持ちですか。新堀振興センター局長さん。

#### 鎌田新堀振興センター局長

新堀コミュニティからは、確か、25万程支出したと思っております。

#### 菅原昭造会長

他にいかがですか。

### 川村茂委員

この間の花火の時の寄付のところを見たら、一番先のところに、在京町人会 50 口という寄付があったんですが、50 口は、5 万円か 50 万円か。

### 高橋地域振興課長

5 万円です。

### 川村茂委員

金額の大小じゃないです。向こうがそのような誠意を持って接している時に、地元がありがとうくらいでいいのか。ということです。

### 高橋地域振興課長

協賛金をいただいてそのほかに、2 名の方が東京の方からこちらの方においでになっております。

### 菅原昭造会長

在京町人会は、通常の花火、先程の、非常に楽しみにしております、手ぶらでも行かれないという事で、先程のような、ずっと前からそういうことになっております、それに対して、どうも、こちらからのアプローチが弱いということなんでしょうね。

どうしたらいいのでしょうか。これから、この問題をどういう形で、推進したらいいか。今年は、11 月また総会でしょう。

### 高橋地域振興課長

11 月 7 日になります。

### 菅原昭造会長

11 月に必ず総会があつて、それにこちらの方から、なんと言いましょうか、こちらの方から交流のためにいろんな人達が出向いているんです。そして、その経費は、直接経費は、市の予算で組んでいる。そうでしょう。以前は町で持っていた。同じお金でも、コミュニティ会議で持って行くところで、その気になったところでは、援助していただいておつたと。それが、新堀コミュニティ会議だったと。

どうぞ。

### 熊谷幸雄委員

新堀は去年は行ったので、言い替えれば、たまたま行ったのが新堀だったので、



経費を出すところがないので新堀が対応したというのが、今までの流れからすればそういうことなんです。前話したのは、さっきも川村さんが言ったとおり、前回川村さんも確かコミュニティの役員やってるんで、各コミュニティには投げかけをしたんですけども、さっき言ったとおり、地区によって行ける芸能のあるところ、ないところというようなことがあるので、どういう形をとりましょうか、ということで、コミュニティの連絡協議会みたいなものを作って、色々な行事を石鳥谷町で一つなら一つ、何か統一したもの、6地区のコミュニティでやれる行事を何か持ちましょうという話の中で、前の協議会の話が出て、6地区でやれる行事に該当するのが町人会の郷土芸能じゃないかという振りから始まった話です。これは、今言ったとおり、予算がないから個人で行ければというのも一つありますけれども、八日市は、合併する1、2年前に、町から予算がなくなっちゃったという段階でもう、直接頼まれて行っているんですよ。それで予算はどうするのか。普通の神楽っていう言い方すれば失礼ですけども、皿踊りとか。衣装と人だけが行くのと、道具がある鹿踊りみたいに、頭から太鼓まで持っていくのは、すごく金が違うんですよ。それで、そういう芸能があるところに行く時は、やはり6つのコミュニティで、そういうことを救う。こういう経緯があってこれを継続するには、6つが揃ってやらなきゃならないんじゃないかということ、前回もこういう話し方でしました。何十万と経費が掛かるんです。太鼓、鹿頭持って新幹線乗れません。チャーター、レンタカー借りて10万。そのほかに旅費。旅費は自分達で持っているって、神楽の人達から言われた経緯もあって、そういうことがあるんだよと。だから、どうにかしたいなと。というのは、前の各地区のコミュニティの委員さんと話したことがあって、やはり、継続していくには、さっき言ったとおり、以前には石鳥谷町がいっぱい金を補助してるからそれで成り立ってたから、それがなくなったからって言っても、出たい人以外にもそうやって、道具持っていくのが大変な人達も行っているんで、それが、各地区に郷土芸能があるのに、声をかけられるのが限られてしまい、一定のところばかりに声かけられるのも困る、という意味もあってみんなが順番に出すと言ったら、出せるものがないなっていう地区もありましたが。6つの内5つには、多分出せる郷土芸能があると思うんです。一つじゃなく三つあるところとか、二つ、それ以上あるところもあるので、町人会で楽しみにしてるっていうのは、八百何人かの会員は、八日市とか、好地という特定の人じゃなく各地区出身者がいるんで、地元の郷土芸能もいけばいいことであって、それにはやはり、みんな揃って、コミュニティが協議会なら協議会を作って、予算措置できれば、新堀さんの25万も大きいですけど、それ以上出していく。少ないところもあるでしょうけど、6地区揃って予算化できて、毎年どこか変わった郷土芸能がいけばいいんじゃないかっていうのが、私の考えです。

## 菅原昭造会長

前の協議会の腹案って言うのがある意味で、継続の内容になっていました。む

しろそこで、コミュニティ協議会を組織しましょうというところまでは行ったんですよね。そこまで行ったんですが、そのあとが、地域協議会、この地域協議会そのものでの希望としましては、提案するだけで、実際には、コミュニティ会議のメンバーの人たちがお決めいただくというところまで行って、今のところ、何て言うんでしょうか、そこまでですね。

#### 熊谷幸雄委員

新堀が、時間的に間に合わなくてっていう言い方すれば悪いんですけど、やはり、行くからには快く行ってもらいたいっていうことで、多分、新堀のコミュニティさんがそういう予算措置したのだと思いますけども。

#### 菅原昭造会長

確かに、財源がある間は大きな装具の必要なところは全部車で行きましたね。チャーターして。今、大掛かりに用意するとすれば何十万も掛かる。熊谷委員の言うように。ということが今は出ていました。

さて、どのようにフィードバックしますか。いずれ11月7日なようですが今年度は。それに対して、私どもの協議会としては、直接の係わり合いはなかなかできないんですが、協議会の会長さん方に、今日もこのメンバーに入っているので呼びかけることは可能ですけども、どういう形で投げかけていけばいいのか、あるいはどういう形で連携をとって行くのかって言うことでご発言をいただければと思います。

どうです、菅原さん。

#### 菅原久男委員

確かに、町人会という組織がしっかり組織されていて、その出身の地域からこういう郷土芸能がきてくれると。もう感激してると思うんですよ。しかし、今我々ができるのは、向こうにいる町人会の人達に感激してもらうためには、八日市として行くのじゃない。大瀬川として行くのじゃないですよ。そうしたら、各コミュニティ会議、今回たまたま、新堀だからじゃあみんなで協力しましょうと、各コミュニティ会議の協力体制で行くのがいいのかなと思いました。

#### 菅原昭造会長

柳原さんいかがですか。

#### 柳原榮委員

私は、みなさんのお話を聞いて、町人会に対する支援とか交流は大事な、大事だなと、まず認識持ちました。行った方々のお話を聞きますと地域協議会として、この町人会に対する支援っていうか考え方をどう持って、今コミュニティ会議というお話が出ておりますが、それにどういう形で投げかけていくかそっちの

方で協議していただくかというところまでお話をしていかないと、まとまってい  
かない。あるいは、もう少し行政に対し、この石鳥谷地域協議会として、必要だ  
し大事だから、行政として、予算がないのは分かるけれども、もう少し手厚い支  
援をできないのかという形で要請をするか、その辺の問題が、私は、みんなでこ  
この話をしていかないと前に進まないのかなと考えております。一つは、行政に対  
する要請ができるものか、できないものか。それと、できないとするとすれば、  
コミュニティに、地域協議会として投げかけて、6つのコミュニティ会議でこう  
いう町人会に支援する手立てを何とかお願いしたいというふうに投げかけてい  
くかと。この辺でないと後はまったく。こっちの方の組織はあるんですか。町人  
会との交流する会員募集だとかはやってないんですか。向こうはあるようだけ  
も、こちらは。

### 高橋地域振興課長

向こうというのは、東京の方の。

### 柳原榮委員

あるって聞いたけれど。こっちの方。要するに我々の方。

### 高橋地域振興課長

事務連絡所みたいなものが地域振興課の中にはありますが。直接的にここでは  
募集をしているわけではありません。かつては、ここからチラシを配ってほしい  
ということ依頼で会員募集のチラシを流したことがあります。それから、町人会  
に対するご意見等がありましたらということで、振興センターにチラシを置いた  
こともあったようです。

### 柳原榮委員

いいですか、私だけ話して。地域振興課で取り組みしてもらって、事務局も今  
度は、行政で持たないというようなことがあったように私聞いたんですが。事務  
局は地域振興課で受け持っていていただいているってということですか。

### 高橋地域振興課長

前は、例えば総会の資料を作るとか、全てやっておったわけですけども、お金  
の経理の関係も。現在はそういったところは全て町人会でやっていただいております。  
こちらの方は、例えば、総会に向けて協賛企業を回るため会長さんがおい  
でになるんですが、ある企業からはお酒をもらうとか、農協さんから米送っても  
らうとか、そういった時に職員と一緒に回っておりました。総会近くになると、  
職員が各企業からそれをまとめて東京の方へ発送したりですとか、いわゆる、側  
面支援の対応はしてございました。

**柳原榮委員**

私、ほんとに認識不足で、そうすると旧石鳥谷町でも、町人会という組織がここにもあると。もちろん向こうは向こうであるわけでしょう。

**高橋地域振興課長**

組織は、あくまでも、東京の方だけです。

**柳原榮委員**

向こうだけの。

**高橋地域振興課長**

ここは、事務連絡所ということで。

**柳原榮委員**

すると、酒を寄付してもらうとかは誰が歩くんですか。

**高橋地域振興課長**

会長さんと職員が歩きます。

**柳原榮委員**

会長さんは向こうの会長。

**高橋地域振興課長**

はい。熊谷福二さんという向こうの方と職員が歩く。

**柳原榮委員**

それでは、全く一方通行だね。だから全く、川村さんが言うように、片方はちゃんと組織されていて、支援をする側がさっぱり組織があやふやでは。

**高橋地域振興課長**

市とするとですね。直接的な関与はしないということです。あくまで。議員OB会でも、昔は議会事務局の職員が一切お手伝いをしておったんですが、現在は、一切それぞれということで。結局、昔は何でも行政でできる時代もあったわけですけども、今は少子高齢化で経済もこのような状況ですので全て行政でやるっていうことができない状況になってございます。そういったこともございまして、市長の発言にもあります「地域でできることは地域で」という、その一つであるかと思えます。

**菅原昭造会長**

さて、絞り込んでいきますが、これは、やっぱり前から話し合われたことでありますし、今まで継続になっておりますが、具体的には11月7日と日にちも迫っておりますので、この事柄にどう対応するかと考えた場合に、全くの組織がこちらの方にはないので、呼応するのとなれば、また原点に戻りますが、コミュニティ連絡会議ということになりませんか。そうした場合に、この前からの話になりますが、任期満了でいなくなりましたが、市川さんが、そのことで新堀の会長さんとも話し合いがあったようですが、それが頓挫しているということですね、今のところ連合会を作るということについては、分かりますか。

### 鎌田新堀振興センター局長

私の方からご説明申し上げますと、石鳥谷6地域のコミュニティ会議の代表者会議というのは設置されておまして、今年もですね、6月の末にやっております。その中では、まず情報交換と、各々ですね、コミュニティ会議の中の情報交換ということが一つの活動の中の一つになっておりますし、もう一つが、何か共同でできるものを研究していきましょうというのが、もう一つになっております。ということで、組織としては、「6地域コミュニティ会議代表者会議」という組織としては設置されております。

### 菅原昭造会長

ということで、組織は、お願い、提案できる組織はあるようですが、ただ今お話があったように、研究途上、共同事業を何にするかというところは絞り込まれてはいないようですが、共同事業に、今言ったように東京派遣、在京町人会の会員が加われば、ある意味では、共同事業には限りませんけれどもね、糸口が出てくるのかなという感じがいたしますが。

まず、みなさんのご意見を伺いたいと思います。どうぞ。

### 川村茂委員

今、色々なお話を伺っていたわけですが、仮に、コミュニティ会議の連絡協議会に依頼するとすれば、色々な議論の中身があると思うんですが、私が思うのは、郷土芸能派遣と言っても、ものによって掛かる経費も異なるし、人数も異なるし、やり方も異なる。そういうことを考え合わせると、基本的にはどの程度までの議論が必要かということが大事だと思うんです。お互いに、10万円ずつ援助しようというような単純な話もあると思うし、そのような単純な話ではないと思います。ものによっては、60万あれば30万儲かるとか、あるいは20万足りないとかあると思うし、その辺の取り扱いとか、あるいは、議論の仕方によっては参加する、しないって言う話がまた蒸し返すと言うか、出てくる話だと思うんです。いずれ、単純な結論ではないというふうに思います。

### 菅原昭造会長

でしょうね。単純であれば、すでにもものになっているのだから。それだから、何回もしゃべっている。

#### 熊谷幸雄委員

だから、結局は、「今回の地域協議会にこういう話が出ました」と。6月に開催以降の話題を、「次の会を早めて続きの話し合いを願うことができますか」という形しかないんでしょうか。ここで協議して、結論的に「金額をいくら何がしに決めましたので是非お願いします」という場でもないです。それから、幸いなことというか、去年の委員が2人は会長で残ってましたので、その人たちは話を分かって続けてるはずですので、そういうことを通してこっちから声掛けして、「そういう話が出ました」と「また、再度お願いします」という形しかないんじゃないでしょうか。

#### 菅原昭造会長

はい。なるほど、そういうことなようです。残っている一人。

#### 熊谷幸雄委員

コミュニティ会長さんが、ですよ。

#### 菅原昭造会長

会長さんか。

#### 熊谷幸雄委員

会長さんが、現に2人コミュニティ会議の代表者会議に行ってますので、そういう意味です。ここに残ってる人じゃなくて。内容を覚えて、会長で残ってる方。

#### 菅原昭造会長

そうですね。玉山領一さんと、市川浜さんだけです。

今日、どこまでやりますか。これ。川村さん。

#### 川村茂委員

いや、私は、今日は結論でないと思います。だって、今話し出されたようにコミュニティ会議の会長会議が開かれない限りは、話は次に進まない話が変わってしまったので、再度提案しながら協議いただいて、その方向付けを示していただければ、今の答えになるんじゃないかと思うんですが。

#### 菅原昭造会長

会長会議とか、コミュニティ会議の連絡協議会の組織が存在して、しかもそれが、6月に開催されて、次は、いつ頃でしょう。分かる人いますか。

### 鎌田新堀振興センター局長

まだ、具体的には決まっておりません。

### 菅原昭造会長

まず、その組織にこちらの方からお願いできるのは、連続的な考え方なので、こう色々と接触することが大事なんですね。組織として。そういうことになりませんか。今回はね。ただ、ここでは、コミュニティ会議の会長でなくても、コミュニティ会議を代表する方が6人揃っていますので、自分の組織には、そういうことが議論されているということは、是非、お伝えをいただきたいと思います。是非、それぞれの会長に。そして、連絡協議会の会長に。

連絡協議会の会長という職はありますか。

### 鎌田新堀振興センター局長

当新堀コミュニティ会議の会長が“幹事”。代表が幹事という名前になっております。

### 菅原昭造会長

“幹(みき)”幹事ですね。高橋修新堀コミュニティ会議の会長が、“幹(みき)”幹事、いわゆる代表幹事のようなので、そちらの方と協議をさせていただきます。そういうことしかありませんね。

頷く委員あり。

### 菅原昭造会長

はい、ありがとうございました。それで、川村さんからの提案は、非常に大事なことですし、もう、2年も前か話題になっているんですが、なかなか日の目が見えてきませんが、どうなるかにつきましては、多少時間が掛かるかもしれませんがやっぱり前向きに、コミュニティ会議の会長さん方には訴えて行きたいと思います。それでよろしいでしょうか。提案者。

### 川村茂委員

いいです。

### 菅原昭造会長

それでは、次の方の提案に移らせていただきます。湊澤節子委員の提案がありますので、どうぞご提案ください。

### 湊澤節子委員

“家庭の安全・安心は、健康から”というタイトルでございますが、女性団体会議で会合を持ちましたが、その時、要望が多く出まして、地域課題となることがでなくて、ほんと些細なことがたくさん出ましたが、やはり、高齢化に反して働き盛りの50代から60代の体調不良の、特に私の家の近くを見ましても男性の方が多くおります。それから、「偏食、暴飲、暴食」と書きましたが、色々な要件があると思いましたが、特に強く感じたのは、隣の奥さんが61歳で、もう6カ月か、1年の余命といわれましたけども、2カ月で亡くなってから、やっぱりそうだなと実際感じたところでございます。それで、皆さんにこれを提案して、皆さんでお話し合いをしていただきたいと思ひまして提案いたしました。課題解決の方法ですけれども、市民運動として自主的に各種団体、グループ毎に講習、講話に取り組む必要がある。やはり、女性が先頭に立って食生活の意識改善が必要と思われる。ということで提案させていただきましたので、皆様からのご意見をお願いいたします。

### 菅原昭造会長

はい。どうもありがとうございます。どうぞ皆さんの方でお気づきの点ご発言ください。

はい。どうぞ。

### 川村茂委員

私だけ話するようですが、私の集落について、日頃悩んでおりますので。石鳥谷町八重畑38区猪鼻75戸。今、地域の課題として何かあるかというのと、一つ、人口が減り、空家が増え、集落が崩壊し、その内容についてお話ししますが、75戸のうち、今、渕澤委員からお話がありましたように、肝心な世帯主になって、これから活動、活躍していただきたいという方が、1割以上病気になって、おしめをしたり、あるいは入院したり、という状況にあります。それからもう一つは、一つの班、8軒の班なんです。具体的に話しすればすぐ分かる話ですが、元の八重畑農協周辺の、家では6班と言ってるんですが、8戸あるんです。その8戸の中で、確実に部落活動に出てくるのは2戸しかありません。という状態です。それから、75戸のうち、空家が15軒あります。これは、防犯上にも、色々な意味で、対応が難しい部分もあるし、結果として今の世の中がそうなるんで。まだもう一つあります。どこの地区にもありますが、後継者でありながら、嫁をもらわない人が15%くらいあります。つまり、その家が今後継続されていくかどうかという問題にひっかかっているんです。

ここで議論してすぐ答えが出る問題ではないっていうことは認識するわけですが、現実の問題として、今このような問題があるって言うことを認識しなければならぬし、その次には、なぜ、そういう結果になっているかっていう分析なりを考えなければならぬと思います。

私自身も、15年くらいになりますが、高血圧、あるいは、血糖値が高い、あ



るいは中性脂肪が高いと言われて薬を飲み続けているわけですが、私、お医者さんに言ったんです。「俺の命あとなんぼあるのす。」と。医者を何人変えても薬しか出さない。「一体俺、何年生きるんだ。」と。重ねて、「保険のこと、家のこと考えなければならぬから、あと何年生きるんだ。」と言ったら、医者は「あと20年生きる。」と。20年生けるといったら、90になる。90になってあたらって暮らすのはつまらない、ということで私「じゃあ、確実にこの数値を下げてください。」と言ったんです。そしたら、「入院しなさい。」と言われたんです。入院して何をやったかという、食事療法3カ月。それでみんな下がりました。結果として、健康体になったかという、それはまた別の話であるけれども、いずれ、下がるってということが分かったんです。今まで全然下がらなかったのに。その一番の原因は、アルコールだったと。先程お話があったように、「暴飲、暴食、若い頃の暴飲、暴食」あるいは、「好き嫌い」これが、もちろん、基本的な原因だと思っておりますが、いずれ、私よりも若い人達が今そういう状態で、精神的なものも含めて非常に多くなってきている状態にあります。これは、一つの、地域や何やの話ではなくなってくる。ということで、私自身も強く感じているところであります。

#### 菅原昭造会長

はい。ほかに。

私の主治医は、来久保の先生ですが、とにかく「食うな」で。そして、そこに入院した人は、食事が少ないもんね。そうすれば、とつても腹がへると夜間抜け出して食べるとかそういうことがあるようですね。いずれ、食事を自分でコントロールできない人は、なかなか回復はしないようですね。私は、「あんまり食わない方がよがんすじゃ。」と言われるけれども、お互いにこれは気をつけなければならないなと川村さんの意見を伺って思いました。

そこで、このことについては、市民運動、町民運動という形での提案ということで、意識への改革を進める必要があると、具体的にはどのように提案したらよろしいでしょうか。どうぞ。

#### 菅原久男委員

今の食育教育ということで、うちの上司が、講師であちこち歩いているんです。これは、市町村からの要望で、ですが。

#### 菅原昭造会長

上司とは、新田道子さんのことですね。

#### 菅原久男委員

ええ。それで、行先は要望のあった市町村の中のある婦人団体だったりしてですね。そういうところからの要請で、食育教育ということで今歩いているんです。

子供さんにとということでも、実は対象はお母さんなんですよ。実際に食事を作っているのは。この場合は、この60代50代といいますと、やっぱりその奥さんですかね、直接料理を作って食べさせているのは。本人はもちろんですけども、実際に家庭で料理を作ってくれている奥さんを対象にしたりした講習会をやっていました。こうなると、やっぱり、本人に食べるな、食べさせてはだめですよと言ってもあまり効果はないので、実際に食事を作ってくれる当事者にこういう食事がいいですよと、そういう教育をしているようです。ただ、子供さんを対象にする場合は、お母さんと子供さんが一緒にいるところで講習会をしている様子を見ております。食育教育という名の元での健康管理のお話ですね。これはある地域の婦人部でもいいですし、市町村の市町村長の方からの提案でもよろしいでしょうから、そういう有効な講師もおりますので、講師の活用をしては、少しは効果があるのかなと思っておりました。

#### 菅原昭造会長

いずれ、今の事例は新田道子さんのこと。

#### 菅原久男委員

ええ、今の事例はですね。

#### 菅原昭造会長

あの渕澤さんの提案については誰も異存はないのですが、具体的にどうやっていけば一番いいのでしょうか。今、菅原委員さんが言うように、いろんな研修会、交流会っていう事例もありますよといったお話だったという気がします。ほかに皆さんの方からどうやって進めたらいいか、あるいは進めるべきか、お話ありませんか。これもコミュニティ会議に持ち込みますか。コミュニティ会議でなくても、各振興センター他いろんな研修やっていますからね。そこで具体化していってもらえればという感じがいたします。

はい、どうぞ。

#### 藤原眞紀男委員

健康診断をしっかり怠けないで受けて、何でも食べるということ。これだけ、地球環境が温暖化になってきますと、今後、どういうことが出てくるのか。おそらく、牛（口蹄疫）があったり鶏（鳥インフルエンザ）があったりいろんなことがありましたけれども、このウイルスの変化がもう少し強いものに化けてきた場合に、本当にこれからの人達は抵抗力が少ないと思いますしね。やっぱり、そういうことも生活の中で啓蒙していただくというのが一番いいのかなと思います。

#### 菅原昭造会長

ほか、ございませんか。ここは、議会でもないし、言うなれば委員会でもない

ので、お互いに話し合ったことをある時期に、きちっと取りまとめて次の段階に移ると言う仕組みになっています。今日は初めての提案でありますので、ここで“こうこう、どう”ということは決めませんので、具体的なところまでは今日は持ち込めないと思います。提案のあったところを情報交流、情報交換しましたので、審議を受けてですね、次の機会にでもお互いに知恵を出してほしいと思います。そういうことで、いかがでしょうか。このことについては、常識的には分かっているけれども、なかなかできないと言うのが、正に交通安全運動と同じで、繰り返し、繰り返しやっぱり訴えていかないと定着しないことは、お互いに常識的に分かっていると思います。

2番目の提案については、とりあえず今日の協議については閉じたいと思いますがよろしいでしょうか。

その次に、特に特定のもの提案はありませんが、書き物に出さなくても、ここでは提案できますので、このほかに今後、この地域協議会で話題あるいは協議内容にしてほしい、あるいはすべきもの、あればこの際ご発言いただきたいと思いますが。はい、どうぞ。

#### 藤原眞紀男委員

ちょっと、先程気になったんですが、町人会の件ですけれどもね。市の方としては関与しないと、その「関与しない」という基本的なその背景というのはいかかなものですか。むしろ誰でも、ふるさとというものは特別な思いがあるわけですし、年を取ってくれば取るほどそれは非常に重いものがあるって、それをそういう福祉の方から考えてもですね。この町人会というのは大事なような気がするんですけれども。それを考えれば、むしろ花巻市として、市全体総合的にやって、その中から分科会か、なにかやるとかいうような方法もひとつ選べるでしょうし、そういうものは、予算がないからということが基本的な背景で、その辺がちょっとひっかかったんですけどね。

#### 菅原昭造会長

だそうです。基本的な話を。

#### 菊池石鳥谷総合支所長

基本的な考え方ですが、先程、課長からも話しましたが、それぞれの組織が自主的に運営をするっていう基本方針で、全ての組織にそれを優先しております。これは町人会に限りません。老人クラブであってもそうですし。なので、今まで、町とか職員が関与していたもの、事務局を請け負っていたものから切り離しつつあります。自主運営これが基本ですね。その上で、行政としての支援がどういう可能性があるのかという話になります。

今までは、支援ではなくて丸抱えだったと。それを、支援という形で行政が関与するというように、方向転換と言いますか本来そうなんだという考え方なのか

もしれませんが、そういう方向に全て行きつつあります。

そういう方向にいかざるを得ない理由は2つあると思います。なぜかという、丸抱えの場合は格差が出てきます。例えば、旧1市3町の場合に、色々な関わり方によって差が出てきます。それをなくそうとするそのものが熱意であるとか、継続性に対する熱意であるとか、団結力であるとか、連携であるとかだろうと思います。その誠意とかそういうものがない部分については、やっぱり支援も弱くなっていいんだと、仕方がないんだという部分もあるんだだろうと思います。それからもう一つ、育成すべきもの。これについては、今後こういう方向が望ましいというものが出来れば、育成に関しても、同じような形が出てくるかもしれません。答えになっているか分かりませんが、「市が関与しない」とかいうような考え方だとちょっと違う方向に行くのかなというふうに思っています。ちなみに、石鳥谷は一番、関与している部分で少し関与が強すぎると言われているのが正直なところです。今、それを調整しようという段階に入っておりますけれども、調整はあまり強力に行政がすると自主性が壊れますので、その辺のバランスが大変面倒なんだなというふうに思っています。

それから、私、お話を聞いていて率直に思ったんですけれども、町人会の関係で、民俗芸能は当然一つの手段でしょうけれども、交流という形はもっと広い範囲で考えていくべきなのかなと。もし、求めるのであれば、さっきの食生活の関係もそうですけれども、この場で出たものを、それぞれ皆さんコミュニティ会議に関与しているのしょうから、会長止まりじゃなくて皆さんの方からも話題提供していただければ、非常にありがたいなと思うふうに思っています。連携と言うのは、必ずしも組織だけじゃないと思いますので、考え方が一つの方向に行けるようにコミュニティ会議にお願いしたいなと思うわけでありまして。余計なことかもしれませんが。

## 菅原昭造会長

時代の変遷で行政主導であったものが、今の言葉で何ていうんですか、住民発想と言うんですか。今は“協働”という言葉で置き換えられていますが。昔は花巻市も丸抱えが多かったんですよ。宮野目公民館の主事が貯金通帳22冊持っていました。全部の団体の貯金通帳です。それが少しずつ淘汰されて、今総合支所長が言ったように、本来、納税組合とかあるいは交通安全協会とかそういうものは、本来的な団体が自分達の努力でやるべきだと、こういうふうに置き換わってきつつあると、こういうことであります。石鳥谷町内もそういう意味では、昔と違ってかなり淘汰されましたが、それぞれ今、総合支所長の話を知ると石鳥谷が一番関与が深かったとあります。これは、ある意味では、行政が非常に懇切丁寧にお世話をしたと、このように私は認識しておりますが。合併しますと、やっぱりある程度平準化されますんで、今の流れは、ある意味では了承せざるをえない。これも団体みんな同じです。体協なんかひどいものです。石鳥谷も花巻の体協の何十倍も金貰っていた時期があったものですから。ということで、これは歴史の

流れの中で、是正すべきものは是正し考え方を統一すべきものは統一していくというプロセスが必要なのかなあというふうに私は考えているところです。いかがでしょうか。そういう今の話でございます。ただ、町人会に関しては、歴史的な背景を考えますといきなり、組織もその他人も色々バラバラなものですから、それぞれ勝手にやりなさいって言うようなことは難しいのかなということで、とりあえずは、コミュニティ会議の連合会の方と相談して少しでも会いに行くようにしたいということでもあります。

今、その他ということで提案させていただいております。そのほか、何かないですか。どうぞ。

### 川村茂委員

花巻市が合併して5年目になっているわけですが、前回は合併効果について、若干触れた委員の方がおりましたが、これから同じようなことを話したいと思います。

というのは、先程各町人会に対して補助金が交付されているという話がありまして、石鳥谷町は20万、花巻は30万、大迫、東和10万という話をありまして。同じようなことで、石鳥谷が優遇されているような話をされましたが、実は、合併当初私は花巻の文化団体協議会の監事をやっております、その内容を見て唖然としました。というのは、花巻市が、現在もそうだと思いますが、そのそれぞれの文化団体に出る補助金は、私の記憶の中では、花巻市が350万、東和町が150万、大迫120万、石鳥谷町30万。この格差は何だ。それは、合併以前の予算、という話で。その後、私が総会においてこのことを公開し話したことによって、石鳥谷町には事務手当、事務費として30万くらい追加されてきたというふうにも聞いておりますが、いずれ、あまり改善されてはいない。一体こういう状況は合併効果とはいえないし、それから、今後いつまで続くのかということについての疑問を感じております。ここで、どうのこうのと結論が出せないことは分かっておりますが、一体合併とは何だったか、そのことについてもう一度考え直してもいいんじゃないかと思っています。以上です。

### 菅原昭造会長

全くそのとおりで、さっきの話のとおり、合併前のレベルで予算がきているというのが実態なようですが、この前の、田中委員が今日来ていませんが、花巻青年会議所主催の合併の検証、デメリットの検証、あるいはメリットの検証をしたようですが、何か、そのまとめのようなものありますか。誰か行って聞きましたか。

### 高橋地域振興課長

私は行けなかったんで、新聞でくらいですが。

**菅原昭造会長**

新聞で見てどうだった。

**高橋地域振興課長**

少しでした。

**菅原昭造会長**

検証の集いがあって、そこで色々な発言があったようではありますが。いずれ、色々な分野で今後このようなことが行われるだろうと思います。そして、それでいいのか、悪いのかという議論が次は出てくるだろうと思います。ほかに、今のお話については、これもまた情報が不十分であります。また、精査して次の機会にでも話し合いたいと思います。

あと、何かありますか。はい。

**菅原久男委員**

この間、大瀬川で会議があったんですけども、その中でちょっと気になる発言がありました。合併する前は困ったことを役場の方に言えばすぐ対処してくれたと、変わったんですかね。すぐやる課とか何かそういう課があったんですかね。今はですね、何かを要望する、上申するっていう行為に対していいとも悪いとも、いつ頃っていうこともなかなか返ってこないという苦情が2、3人あったんですよ。私は運がいいのか、お願いしたことをすぐ対処してもらっていて、この間建設係にお願いしたら次から次と対応してもらったんですよ。だから私は全然気にならなかったんですが、会議に参加してる方から、そういう意見というか苦情があって、ちょっと気になったんですけども。これは市としての話だと思うんですが、まず、出来なければ出来ないと、これは作れないと、それでもいいからそういうことをすぐ言ってもらえばいいと、早く言ってもらえばいいということなんですが、なかなか返事が来ないと。出来るとも返事がないし、いつ頃ということもないと。

**高橋地域振興課長**

要望の案件は何だったか分かりますか。

**菅原久男委員**

それは、私聞いてないんですが、それに尾を引く方が言っている。

**高橋地域振興課長**

合併して、業務の取仕切りは各部、いわゆる本庁の方へいきます。支所の方には関連する係が、地域振興課あるいは市民サービス課ということであるわけですが、例えば、一例で建設係のことで言えば、道路が雨で流れたから砕石引き

てほしいっていうのはすぐ出来るんです。ここに運転する人もいるし機械もあるし碎石もある。ただし、例えば道路を作ってくれて話になってくると、本庁の方に上げないとできない。その中身によって対応が異なってくるんだと思います。市長は返事はきちんと早くと言ってますので、そういった声があるようでしたら、具体的に私の方に話してもらえばその辺ご説明をしたい。具体的な事例がわからないとなかなか説明が難しいので、画一ではないっていうことです。ケースが色々あると思いますので、いずれ、聞きたいことがありましたら、振興センターもよろしいかと思ひますし、支所の方でもよろしいかと思ひますので聞いていただきたいと思ひますので、よろしくお伝えいただきたいと思ひます。

### 菅原久男委員

今度の役員会でも少し確認いたしますけども。

### 高橋地域振興課長

是非、すぐ対応した事例も紹介していただいて、よろしくお願ひしたいと思ひます。

### 菅原昭造会長

振興センターでも総合支所でも一生懸命やってくれてるんですよ。組織が大きくなりますと、内容によっては本庁と協議しないと前に進まないような事例もかなりありますので、一般的な言葉で言えば、とにかく小回りは確かに利かないんですよね。正直な話。ですけれども、これは大きな花巻市という行政の中での一つの過渡期だと思います。今課長は出来るだけ迅速と言っていますけれども、いずれ本庁決裁事項については多少の時間は掛かる、というふうに私共は認識はしております。前であれば、ここに来れば即決、そこに町長がいてそこで決まったのがそうはいかないということです。

ほか、ございますか。どうぞ。

### 菊池石鳥谷総合支所長

今、川村委員から、限界集落的なお話も聞こえてきたんですけども、実はですね、行政のやることなので皆さんの協力がないと、当然うまくいかないんですけども、福祉サイドの部分と防災の部分とで共同の説明会を、要援護者と自主防災の説明会を27箇所のコミュニティ会議で進めることになっています。実は、人の繋がり等、把握する作業、いろんな方々の手助けがありそうだと思いますけども、そういうこと通じてですね。その実態、あるいはどうすればいいかということを考えることを期待するものですので、よろしくお願ひをしたいと思ひます。

### 菅原昭造会長

今のお話は防災のことと要援護者のことについての市の説明会があって、その

あと社会福祉協議会で1時間、時間をもらうことにしております、トータル2時間の予定になりますので、そのような案内をもらっている方はよろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかはござひますか。今日のところはこの辺でよろしいでしょうか。

3回目ということで、だんだんと練れてくると思ひますが、4、5回になりますと、具体的にある程度、切り口が見えてくるかなと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひますけども、ただし、色々と期日が切迫しているものについては、優先的に先に議論していただくように心がけて参りたいと思ひます。

それでは、その他ということ。

#### 4. その他

##### 高橋地域振興課長

次の日程をお願ひしたいですが。

##### 菅原昭造会長

次はですね、第4回ということになります、お祭りシーズンが9月に入ってくるわけですが、その後あたりと言うふうに考えておりますけれども、トータル的にはいつ頃がよろしいですか。

##### 高橋地域振興課長

8月15日号の広報にですけれども、5ページ目に花巻市総合計画について、花巻あるいは、大迫、石鳥谷、東和の地域協議会の諮問が10月の予定になっているようござひます。9月はお祭り等色々あるので、10月にこの諮問があった時に開催ではどうかと事務局では考えてござひましたが、いかがでござひますでしょうか。

##### 菅原昭造会長

はい。10月。9月はお休み月ということにしまして、10月ということの提案でありましたが、よろしいですね。日にちは、まだちょっと読みかねますが。総合計画の策定についての正式諮問があるという想定の中での今お話です。当然、総合計画の中身と先程来話合っている中身は全部関連しておりますので、この段階で具体的に吟味してもらえれば、ある意味では生産的なディスカッションができるのかなと期待を持っていますので、そういうふうにさせていただきたいと思ひますが、いかがですか10月ということ。よろしいでしょうか。

頷くもの複数あり。

##### 菅原昭造会長

では、そのように取り計らっていただきます。



それでは今日はこの辺にしたいと思います。ありがとうございました。

5. 閉 会 菅原久男副会長が閉会を宣した。16 : 25